

浜村地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成24年10月29日（月） 19:00～20:45

2 会 場 気高町中央公民館

3 出席者 地元出席者 40名
市側出席者 20名

竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、堀防災調整監、大島都市整備部長、堀尾農林水産部次長、藤井都市整備部次長、松ノ谷教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長

<気高町総合支所>山田支所長（司会）、田中副支所長、島崎市民福祉課長、山本産業建設課長、高田地域振興課課長補佐

<事務局>安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明（危機管理課参事）

5 「協働のまちづくり」についての報告

（きらり☆浜村まちづくり協議会副会長）

まず、いままでの経過ですけれども、平成20年5月に準備会の立ち上げ、同じく7月に住民アンケートの実施。そのアンケートを基にいろいろ企画いたしまして、21年の5月に設立総会、翌22年の2月に専門部会が始動いたしました。

組織ですが、総会、これは構成員からなるものです。浜村地区の各団体、浜村小学校教育振興会、地区区長会、民生児童委員、各種ボランティアの団体のかたがたを構成員としております。その中から20名程度運営委員を選抜いたしまして、運営委員会を開いております。CSTメンバーというのは、市の職員のかたに入っていて、いろいろアドバイスをいただいております。それで、その中からまた専門部会というのがあります。文化部、環境福祉部、啓発部ということで3つの部に分かれて事業を発案しております。それで、その事務局といたしまして、浜村地区公民館の館長以下、主任さんとか主事さんに入っていていただきまして、それぞれの部を担当していただき、アドバイスをいただいております。

目標といたしましては、文化事業は中央公民館、浜村地区公民館、地域福祉協議会、まちづくり協議会の明確化を図りながら、かつ連携し、協力体制を整え地域住民に伝えるように活動していきたいと思っております。環境福祉事業は、人と人とのつながりが弱まり、地域の連携感が希薄化している中、子どもから高齢者まで交流できる場を提供し、コミュニティの輪を広げて、安全で安心な住みよいまちをつくるというのが目標です。啓発事業といたしましては、途切れることなく地道に啓発活動を続けることで周知を図っております。

いま現在までに順調に進んでいる取組みについてです。ここに出ておりますのがイメ

ージキャラクターの湯貝ちゃんと申します。これは浜村小学校の方に応募をかけて、浜村地区のこのまちづくり協議会のキャラクターはどんなのがいいかっていうのを募集いたしました。それで、小学校のその当時1年生の子が描いた絵を基に、もうちょっとなんとか皆に受け入れてもらいやすいようにした方がいいんじゃないかということで変更して、発案した子どもさんにも了解をいただいて、キャラクターを作成いたしました。



環境福祉事業ですが、ヤサホーパーク多目的広場の芝生化ということで、平成23年7月3日に協働による芝植えを行いました。浜村小学校や浜村保育園などの数多くの保護者のかたや、地域のかたに参加していただきまして、100名程度の人数で行いました。それに併せてイベントといたしまして逢鷲太鼓の演奏。その後、昼食ということで皆がソーメンを食べました。それで、その後に一応公園のゴミ拾いをした後、グラウンドゴルフをいたしました。ヤサホーパーク多目的広場芝の維持は、一年を通しまして芝刈り、水やり、清掃と定期的実施し、環境維持に努めております。1週間の交代制で当番を決めまして、水やりはだいたい5月から9月まで。芝刈りは5月から10月まで、1週間から10日に1回。肥料を撒くのも月に1回で、5月～12月までということで行っております。足湯の清掃ですが、これは当番制で毎日行っております。足湯を常に清潔に保ち、利用促進を図るための足湯の清掃及び周辺環境整備を、運営委員で当番を決めて実施しております。周りに灰皿がないんですけれども、やっぱり吸い殻等いろいろありまして、その足湯に行った当番のかたが、気がついたら掃除するっていうふうに行っております。

イルミネーション設置ですけれども、これは啓発事業です。貝がら節祭りに併せて、7月～8月まで足湯の周りの屋根のところに飾ってライトアップしております。冬はクリスマスに併せて、11月の末頃から12月のクリスマス頃まで行っております。季節に合わせて、ヤサホーパークに啓発用のイルミネーションを設置しております。

今後の課題と問題点ですが、あまり思うように進んでいない事業があります。環境福祉事業についてですが、河川の清掃や草刈りです。以前からアンケートにも出ておりまして、この河川敷の清掃、あまりにも汚いのでしてほしいというような意見が多ございました。ただ、あまりにも草が茂りすぎていますし、広いものでどこから手をつけていいか分からないような状態で、いまちょっと計画が滞っているようなことです。

最後になりましたが、昨年を引き続き、気高町にまちづくり協議会が5つあるなかの代表ということで、地域審議会にも参加させていただいております。それで、いろいろ勉強させていただいて、地域の思いと行政の思い、いろいろ考えながらよりよい浜村地区、それから気高町を目指して活動してまいりたいと思いますので、地域の皆さま並びに今日おいでの行政の皆さまに、ご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

6 地域の課題についての市長等との意見交換

浜村地区内の通学路の安全について

- ・浜村小学校の通学路の現状と課題及び市道での対策の考え方を伺いたい。
- ・山陰道整備の今後の予定や、「鹿野・浜村温泉ランプ」ができることに伴う交通量変化予測を伺うとともに、通学路の安全対策に関する対応等の考えを伺い、意見交換したい。

<担当部局の所見等>

【企画推進部】

本年6月に教育委員会で実施された通学路緊急安全点検により、浜村小学校から11カ所の危険箇所が報告され、7月17日（火）に学校、警察、県土整備局、気高支所地域振興課等の合同安全点検を行い、各箇所の状況の把握及び改善に向けての対策を検討しているところです。

また、県道八束水勝見線及び市道日光浜村線については、現在、最高速度30kmの速度規制を行っていますが、交通規制標識に加え、速度規制の道路標示や交通時間帯の通行規制等について、地元や所轄の浜村警察署とも相談しながら現地確認等も行い、年内を目途に可能な対策を検討していきたいと思っております。

【教育委員会事務局】

学校では、小・中学校の教職員や保護者および地域の交通安全指導員の皆様のご協力を得ながら、登校時を中心にして安全確保のため街頭指導をするように関係者に協力を要請してまいります。また、機会あるたびに交通事故に遭わないよう交通ルールやマナーの遵守など安全指導を徹底してまいります。

【都市整備部（都市企画課）】

○鳥取西道路の現在の状況及び今後の予定について

鳥取西道路について国交省に確認したところ、鹿野町梶掛～重山間の現在の状況は、道路設計協議が完了し、順次、用地買収を行なっているとのことです。また、用地の引き渡し完了した箇所から、畦畔設置、除草といった用地管理を行なうとともに、埋蔵文化財調査のための試掘調査も行なっているとのことです。

今後も引き続き用地買収を行ないますので、用地買収へのご協力をお願いしたいとのことです。

なお、埋蔵文化財の調査の現場に入るための準備工事を行ない、文化財調査が完了した箇所から橋梁工事等に着手する予定とお聞きしています。

○鳥取西道路開通後の交通変化について

現在、浜村地区以西から鳥取方面への車輛は、国道9号と県道八束水勝見線を経由し広域農道が利用されている状況となっています。

鳥取西道路の開通後は、浜村地区以西から鳥取方面へは鳥取西道路を多くが利用され、県道八束水勝見線を含む支線道路の交通量は減少すると考えています。

○県道八束水勝見線の安全対策

県道八束水勝見線について鳥取県に確認したところ、県道両側に住宅等が連担しており道路拡幅は困難ですが、通学児童の安全確保のため路肩部にカラー舗装を実施済みであり、今後は、通行車両に対する速度抑制対策として『徐行』『スピード落とせ』等による路面標示の設置を検討したいとのことでした。

本市としましては、今後、鳥取県に対して速度抑制対策が早急に実施されるよう要望していきたいと考えています。

【都市整備部（道路課）】

市道日光浜村線及び勝見乙亥正線の対策については、ほとんどの区間両側に住宅が存在することから、道路の拡幅や歩道の整備は困難と考えられます。このため市道においても県道と同様、路面標示による速度抑制対策を検討したいと考えています。

（協働推進課長）

まず、浜村地区内の通学路の安全についてということで、通学路の現状と課題及び市での対策の考え方はどうかというテーマをいただいております。併せまして、補足の中で浜村駅前の県道八束水勝見線とそれにつながる市道日光浜村線は通行量が減ってきたけども、逆にスピードを上げる車が増えてきて危険であるということ、それから県道八束水勝見線の歩道のない区間、路側帯をカラー舗装してあるけれども、色分けだけでは効果がないのではないかと課題をいただいております。その中で、まず浜村小学校の通学路の現状の部分からご説明をさせていただきたいと思っております。

今年の6月、教育委員会の方で通学路の緊急安全点検を実施しております。これは、市内全小中学校で取組んでおります。この中で、浜村小学校の方から危険箇所として報告をいただきましたのは11ヶ所です。この報告を基にしまして、市の方では鳥取市通学路交通安全対策推進協議会という組織を、内部の関係課を中心に、必要に応じて県ですとか国交省、警察署なども交えてつくって、現地点検を行っております。この浜村小学校の通学路危険箇所につきましては、7月17日に浜村小学校、警察署、県土整備局、総合支所の地域振興課等関係者で合同点検を行っております。その中で、危険箇所の状況を把握し、現在その危険箇所の改善に向けて対策の検討を、それぞれが持ち帰ってしておるところです。

11ヶ所の報告をいただいておりますけれども、このうち2ヶ所につきましては、道路の植栽の剪定とか、法面の草刈りが必要だという内容でした。また伸びたら対策が必要に



なりますけれども、2ヶ所につきましては、ひとまず対応をしております。

次に県道八東水勝見線のことです。ここは最高速度30kmの速度規制がかけられています。これに、さらに交通規制の面で何かできないかなということでも検討をしております。これですけれども、例えば、速度制限の道路標示をもう少しよりも増やしてみてもどうかということもひとつは考えております。もうひとつは、時間帯による通行規制を可能であれば検討してみてもどうかということも考えております。いずれにしても、どういふ対策がいいのかということも、地元の皆さんや警察署、それから、必要に応じて県土整備局などにも声を掛け、改めて現地で皆さんとご相談をさせていただいて、年度内を目途に具体的な対策を検討し、さらに内容によって公安委員会なり、県にも要望していきたいと考えておるところです。

(教育長)

浜村地区内の通学路の安全についてということなんです。県道八東水勝見線を通学して来ます小学生は43名あまり、それから、姉泊方面から中学校に通ってきます生徒が自転車通を含めて60名あまりです。学校では教職員や保護者の皆さん、また、地域の交通安全指導員の皆さまがたの協力をいただきまして、登校時を中心にして安全確保のための街頭指導をお願いするよう、関係者に協力を要請してまいっております。また、機会ある度に、交通事故に遭わないよう交通ルールやマナーを守るよう安全指導を、今後徹底していきたいと思っております。

(都市整備部長)

まず、鳥取西道路の現在の状況ですけれども、国土交通省に確認しましたところ、現在鹿野町の梶掛から重山にかけて順次用地買収を行っているとのことなんです。また、用地の引き渡し完了した箇所から畦畔、水はけの措置、また除草といった用地管理を行いますとともに、埋蔵文化財調査のための試掘調査も行っているとのことなんです。「今後も引き続き用地買収を行ってまいりますので、ご協力をお願いしたい」と伝言を預かっております。また、埋蔵文化財の調査の現場に入るための準備工事を行い、文化財調査が完了した箇所から橋梁工事等に着手する予定と聞いております。

続きまして、鳥取西道路開通後の交通変化です。現在、浜村地区の西から入ってくる交通につきましては、国道9号と県道八東水勝見線に分かれ、広域農道の方に流れているという流れかたとなっております。鳥取西道路の開通後につきましては、浜村地区内を通過しておりました流れは基本的には鳥取西道路に移るといふ予測をしております。ですので、県道八東水勝見線を含む支線道路の交通量は



減少するものと考えております。

続きまして、県道八束水勝見線の安全対策ですけれども、こちら、鳥取県に確認しましたところ、事前にいただいておりますとおり、県道両側に住宅等が連坦しており、道路拡幅が困難なため、現在カラー舗装を実施しております。ただ、これでは不十分だというご意見も承っておりますので、県に相談しました。そうしましたところ、通行車両に対する速度抑制対策をさらに付け加えるとなりますと、徐行ですとか、スピード落とせ等の表示を追加することを検討したいということです。本市としては、今後県に対しまして速度抑制対策、具体的には文字による表示ですけれども、これを早急に実施されるように要望してまいりたいと考えております。

それから、市道日光浜村線及び勝見乙亥正線の対策です。こちらもほとんどの区間で両側に住宅がございますので、道路の拡幅や道路の整備は困難な状況です。そのため、いま申しあげました県道と同様に、路面の表示による速度抑制対策を検討してまいりたいと考えております。

(地元意見)

いろいろと子どもたちの安全のために、通学路の安全についてということで取り上げていただいて、こうしてお話を聞くのは大変にありがたいなと思っております。前と比べましたら、いまありましたように、通学路の安全を図る緑の道路がきちんと整備され、あるいは保護者や老人クラブのかたがたの見回り隊、あるいは登下校についての安全の配慮というものがずいぶん良くなったと、喜んでおるところです。

けれども、私は駅裏の勝見というところに住んでおり、どういうところが危ないのかということ、本当に身をもっていろいろ体験しているところです。それはどういうことかと言いますと、勝見乙亥正線という、長泉寺というお寺から勝見の中を通って行く道のことです。どういう車が危ないのかと言いますと、朝、高校生などを鹿野のかたが鹿野方面から勝見の中を、駅裏の勝見の中の道を通って、自家用車あるいは軽トラで駅に送っていかれる。朝方、村の中を通って駅の裏側の駐輪場のところまで送られて、子どもさんはその跨線橋を渡って駅に行かれるんです。そのスピードって言ったら大変なものでして、それは何故かと言うと、汽車に間に合うように走るんです。帰りの子どもたちを迎えに行かれるかたは、あまりスピードは出しません。普通に子どもさんを送って行かれるかたは、

浜村地区内の通学路の安全について

①県道八束水勝見線(下原地内)



②県道八束水勝見線(勝見地内)



浜村地区内の通学路の安全について

③市道日光浜村線(浜村地内)



④市道勝見乙亥正線(勝見地内)



消防署の方を通過して、時間を見て行かれるかたですので、これは、あまり町の中、村の中を通過する危険性はないのです。

跨線橋のところはこの車が停まって降ろされる。そこは大変に急な曲がり角、直角の曲がり角もありまして、子どもたちもちょうど通学の時間に、そのところに居合わせることになる。集合場所になっているところも、その駐輪場のところ。そういうこともありまして、早く進めていただきたいなと思うのは、公民館の南側になりますけれども、踏切を越えて乙亥正に行く道がつけられる。いま、農道になっておりますけれども、それが幅広くなって乙亥正の方に続く道ができるということを知っておりまして、杭打ちもできております。杭打ちができているのを見ると、結構幅が広がって、ゆうゆう健康館のところから鹿野方面に向かっていく道ができたら、村の中を通らずに鹿野方面から車が流れるという、たいへん良いことになるなと期待をしておるんです。その道はどのように計画され、いつ頃できるのかということが分かれば、少しでも私たちの村の中の、そういう交通のことについての通学路も安全が保障されるのではないかなと思ったりしておりますので、もし分かりましたらお知らせいただきたいと思っております。

(産業建設課長)

浜村乙亥正線の計画ですけれども、今年度に用地提供していただいたかたの分筆登記をして、市の用地にします。工事の予定としては、予算の関係もあるんですけれども、現在の計画では25年度から27年度で一応完成させる予定にしています。けれども、若干延びることもあります。

(地元意見)

25年度から27年度ということで、あと数年を待ちたいと思っております。幸いに大きな事故はなしに済んでおりますけれども、村の中を分断する大きな四つ角もありますし、あるいは広場から子どもたちが抜ける道もあります。朝の7時過ぎから7時半ごろまでの時間というのが、たいへん危ない。ものすごいスピードで出ていきます。危険を感じておりますので、ひとつ、危険な箇所がそういうところにあるんだなと認識していただければありがたいと思っております。

(地元意見)

2ヶ月ほど前、永江橋のちょうど境目のところで、アスファルトがくぼんでいまして、8月の下旬に工事を行う予定だったんですが、急きょキャンセルされました。うちの方に電話がかかってきまして、今後、工事する見通しはないと聞いたんです。順番待ちという話だったんですけど、具体的にいつ頃工事していただけるかどうか。ここは通学路でもありますし、子どもたちが怪我したり事故になったりする可能性が十分ありますので、その辺は、なんとかお願いできんでしょうか。

ちょうど山根建具屋さんの前の方です。赤いコーンが立っておるあたり、ずっと2ヶ月間放ったらかしです。

(産業建設課長)

あの道路は県道の八束水勝見線です。県の維持管理課には連絡して、すぐ対応していただくようお願いしているんですけど、未だに直してない状況になっております。再度、お願いしておきます。

(支所長)

再度確認して、またお伝えします。

<補足：都市企画課>

県道八束水勝見線の補修について鳥取県に確認したところ、11月中に実施する予定とのことです。

(地元意見)

気高中学校から総合支所までの間の80世帯の村ですけど、先ほど言われたとおり、夕暮れになると、すごい車がスピードを出します。同じことなんですね、ここも。急いでおるのは大変よく分かるんですけど、勝見と同じような狭い道路で、バスも通ります。

湯梨浜町の免許センターに行く用事がありまして、ちょっと気がついたことでもお願いできたらと思うのは、羽合温泉に入るところの免許センターまで来る交差点があります。あそこは田後の小学校かな、田んぼの中の大きな一直線の道の交差点内に茶色の塗装がしてあります。下原から八束水に抜けるのも、いま、緑の塗装がしてありましたが、危険区域のところには、ああいう茶色の表示をすとか、そういうことをしてみたらどんなかなと思いました。参考になればと思っております。

(都市整備部長)

現地がどんな状況になっているのか見にまいりまして、鳥取市内にどういうふうに応用できるか検討してまいりたいと思います。情報ありがとうございます。

<補足：道路課>

交差点の舗装は視覚的に注意を促すのに効果がある対策ではありますが、多くあれば効果も減少してゆくと考えられます。

交差点は徐行が原則であり、速度制限や一時停止などの規制措置が取られたにも関わらず事故が多発する箇所などについて検討していきたいと考えます。

(地元意見)

中学校の通学路かどうか分かりませんが、浜村川に沿って、よく中学生のかたが自転車通学とか、ぞろぞろ歩いて帰ってこられたりします。最近では日の落ちも早いですし、時々通勤で帰る車と交差する場面もあつたりして、照明もありませんし暗いですし、危険だなという思いがあります。さらには、近くにジョイスっていうスーパーがあるんですけども、そちらの方をずっと通って帰られるパターンが結構ありまして、浜村川のところで土手沿いに自転車で帰ってこられるんですよね、中学生のかたが。そのときに道が結構狭いところもあるもので、非常に危ないなと思っています。そのところが広くできるもん

だったら広くしてあげた方が良いのかなと、道路の整備を含めてできないものなのかなと思います。

それともうひとつ、先程道路のところでラインを引いて歩道と車道とを線引きをしましょうという話があったのですが、当然の仕掛けだと思うんです。お金の話をするとアレなんですけども、やっぱり物理的に車が入ってこないように歩行者とか自転車の通る場所と車道っていうのは、きっちり線引きをするのがやっぱり安全対策になると思うので、できることであればお金をつぎ込んでいただきたい。勝見の方の話もありましたけども、歩道を分けるということとはできないもんかなというお話です。

(都市整備部次長)

ひとつ目で、浜村川沿いの土手というふうに言われました。多分河川の管理道ではないかと思いますが、河川の管理道というのは、基本的には河川を管理している、この場合は多分鳥取県だと思いますけども、そちらに許可をいただいて市道とかにしていますので、支所を通じて現地を教えていただきましたら、現地確認をして、管理者である鳥取県にご相談をさせていただきまして、広げられないかということを検討してもらおうと思っています。

ふたつ目に、県道八束水勝見線ですか、いま現在路肩をカラー舗装化しています。これは、車で走られるかたに歩行者がそこを通るんだよという意識づけのためのものですね。実際問題は車も通れます。これを車が通らないようにしようと思えば、その部分に歩車道境界ブロック、だいたい高さ20cmくらいのブロックを並べていけば、歩行者と車道を完全に分離することができます。しかし現在の道路が狭いので、双方向じゃなくて、一方通行か何かをしないと歩車道分離は難しいと思います。これは地域の皆さんのご意見がそういうかたちがいいのか、やっぱり現状の双方向のままが良いのかという、その辺の議論を取りまとめていただければ検討できるかと思います。

(産業建設課長)

浜村川の件、ちょっと補足をさせていただきます。いま言われた浜村川の河川沿いの道路の拡幅ですけども、合併する前の、いまから十数年前に拡幅の計画があって、路線の半分くらいは拡幅しております。いま狭いところはその当時用地買収に応じていただけなくて、そのまま残っているという状態ですので、そういう用地買収の提供がいただけるようでしたら、またこれからお願いして広げる方向にもっていきたいなと思います。

(都市整備部次長)

その浜村川の土手沿いが暗いということについて、明るくする方法としては、市が防犯灯の設置をやっています。これは、新設の費用は全部鳥取市が負担するんですけども、あとの維持管理、主に電気代になりますけども、そういったものをしていただければ、防犯灯の設置は可能ですので、その辺は一度支所の方にご相談いただければと思います。

(地元意見)

私はその地区の住人ではないですが、通学路ということで、全体の中の道路なので、そこに照明を付けましょう、その照明代はその地区で払いなさいっていうのは不自然だと思います。なので、そこは全体を網羅して、何とか前向きに、その利用する児童たちが安全で通学できるような環境を作っていただくのがベストだと思います。その地区のかたにお金を払えっていうのは、ちょっといかなものかなと思います。

(都市整備部次長)

はい。これはひとつの例なんですけども、言われるように、実際にその地区の人じゃないかたがたが、特に高校生とかが通ると、負担は通るところがするっていうのはどうかっていうのはあります。市内でやっぱり同じような例がありまして、その場合にはその町内じゃなくて地域、これまででは地区の自治会が子どもたちのためにその自治会費から維持管理費を負担するというようなことをされている例もあります。もしくは高校生なら別ですけども、例えば中学生とかだったらPTAがお金を負担するということも可能ですので、その辺も含めてご相談いただければと思います。

7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

現在八束水の辺から西側の方は大分道路も開通しておりまして、私、この前松江に行きましたら、2時間半予定をしてましたんですけども、2時間程で着いちゃいました。今度は東側の方がまだできていなくて、早くできたらいいなという気持ちでは思っているわけですが、それに伴いまして、この鳥取西道路が開通した場合に、米子、倉吉、あるいは鳥根県の、鳥取方面に向かう、まったく浜村にはご用のないかたは当然そちらの道を通られます。当然9号線等の道は空いてくるんでないかとは思いますが、私ども、商店をやっている者につきましては、今後の、この浜村地区、気高町内と言いますか、この9号線を通られるかたがどうしても少なくなるものですから、それだけまた、浜村地区の発展がというか、寂れてというか、どうなることやらと思う気持ちも非常に複雑なところがございます。東伯町の話ではないんですけども、開通してしまっ、交通が少なくなっからというのでは、ちょっとどうかなと思う気持ちもございまして、なんとか浜村を、あるいは気高町を活性化するためには、ということも考えていかなければいけないんじゃないかなと思います。

それで、市長さんにお訊ねをしたいんですけど、鳥取市と合併になりまして8年ぐらいになります。もちろん鳥取市の旧市内の中心部が中心となると思うんです。今度駅前、太平線通りにもアーケードができるということもいろいろテレビ等で知っています。現在、鳥取市が非常に広くなりました。この気高・鹿野・青谷が鳥取市の西部、それで用瀬・河原・佐治が鳥取市の南になるということで。もちろん中心は旧の市内なんですけど。では、この気高・青谷・鹿野が鳥取市のどういう存在と言いますか、どういうふう将来していきたいとお考えなのかをお聞きしたいなと思います。もちろん今度は、河原・用瀬・佐治の辺ですか、その辺が鳥取市のどういう存在というか、役目というかになっていくのか、なっっていこうとされているのか、その辺のご計画をお聞きしたいなと思います。浜村・気高というのがだんだんと商店も減り、工場も減り、住宅だけはそれでもアパートとか一般

の個人の住宅は増えているんです。鳥取市のベッドタウンということで。この気高町内を考えた場合にですけど。

また、9号線の保安林がございます。それで、これが去年23年度から今年、来年にかけて松を植えられるということらしいんですけども、あの辺をなんとかもう少し、松じゃなくて活性化のために利用できないかなと思うところです。

(支所長)

簡潔にかつ、1項目ずつでお願いできましたら。

(地元意見)

そうしたら、いまの鳥取市のこの気高地区・青谷地区・鹿野地区が将来どういう存在になっていくのか、構想をお願いします。

(竹内市長)

まず、鳥取市が合併してまもなく8年になりますが、全体としてまちづくりの構想は、鳥取駅を中心とする元の鳥取市の中心の市街地ですね、ここが1つの核ですが、各総合支所のあるって言いますか、合併した各町村、この気高町とか、青谷町とか、鹿野町ですが、ここにだいたい1つずつぐらい、これまでの拠点的な地域を地域生活拠点ということで考えています。この浜村駅から浜村の総合支所、あるいはこの辺りの街なか、中心部と言いますか、その部分もその地域生活拠点のひとつなんです。そういったところと、それから鳥取駅周辺の中心的な核とを結んでネットワーク化をして、そして、市内のいろんな地域で多極型のコンパクトシティというのを作っていこうと考えています。絵で描いてあるとよく分かるんですが、ひとつの考え方で、同様に青谷、あるいは鹿野についてもやはり拠点となる地域生活拠点というのを意識しておりますので、この鳥取市の西部地区については、それぞれ1つずつ、計3つのそういった拠点を形成しようということ考えています。それはまちの構造の問題ですね。

それと西部地域っていうのは農林水産業も盛んです。特に気高町は農業の盛んな地域であります。稲作も、畑作もありますし、これからもそういった特色のある農業を盛んにする。水産業の面でも漁港もあって、非常に特色があります。林業はどちらかというと鹿野町などを中心に盛んであるというふうに思いますが、要は、農林水産業というのが産業の大きな柱だと考えています。

やはりもうひとつ、歴史文化といった面でも特色があります。古い方から言えば上寺地の遺跡、これは青谷ですね、それから鹿野の亀井公の城下町という歴史ないし文化、それから気高も貝殻節の文化とか、そういったものがあります。また、ジオパークもあります。いま、白兔海岸までが鳥取市の中でジオパークの区域ですが、私が狙っておりますのは、青谷町の端っこまで、鳥取市の海岸線を中心に全域をジオパークにしようということです。

この気高町を含めて、西部地域においてジオパークということになると、観光などにもまた結びつく新たな要素です。観光面とえば、温泉をどう活用するか。まだまだ十分な活用になってないという思いをお互いに持っていると思いますが、こういったものも含

めて地域の資源として活かしていこうと。

ベッドタウンかどうかということについて、住宅地は当然、そういうベッドタウン的な要素を持ちますけれども、産業面でも盛んな地域としていく方向で考えています。この浜村の地域ないし気高の地域は、非常に旧の鳥取市に隣接した近い位置にありますし、交通条件も改善されます。いま、企業の誘致とか、そういったことに力を入れております。そうした勤務先には少し通勤することになろうかと思いますが、企業にとって最適な場所に立地します。新たに河原の工業団地を作っていたり、あるいは湖山の地域だとか千代水とか、こういったところに新しい企業も誘致をしたりしています。例えば、ヤマト運輸のコールセンターとか、それからマルカンというペットフードの企業だとか、そういったものもあります。

一方ではそういう勤務先を近隣の同じ市内に設けながら、もう一方で農林水産業など地域の産業、歴史、文化を守る。このあいだは官道の跡が出たというのがありましたが、これも非常に優れたかたちで残っていたということで、おそらく日本中で感動した人も多いんだと思いますが、そういうふうにもろんなものを持っている。それを、自信を持って、誇りを持って語って、しっかりと情報発信することで人も引き付けて、定住人口は仮に減っていても、訪れる人を増やしていく。同じような問題はいろんなところであります。例えば河原町だと、国道53号線の新しいルートができて、それによって元の街なか寂れたというのがありますけども、河原城などの観光地に人を呼ぶようにいろんなことを考えたり、イベントをしたり、あるいはリバーという商店街の地域がありますが、そういったところを活性化するために、地元の商店街の皆さんがまたいろんな知恵や工夫をしていこうとしています。バスの乗り継ぎ拠点を市でそのあたりに作るというようなこと、あるいはちょうど鹿野にあります、幼稚園と保育園が一緒になった施設を、河原の方でもあゆっこ園というのを作っていますが、そんなこと、こんなことでいろいろ取り組んでいます。

今後新しい可能性も出てくるとは思いますが、いまの時点ではそのように、鳥取市が交通条件もよくなって一体化する中で、地域の特色も活かし、この気高の中だけでものを考えるんじゃないかと、青谷とか鹿野とか、そういった地域とも一体的な取り組みをする中で活性化していくということが、我々の考えていることであります。地域には資源がいろいろありますが、それを先程も言いました、自信と誇りを持って情報発信をしていく、語りかけていく、そういう中で人もやってくるし、物も売れる、そういうふうになると思います。

先程、砂の美術館の話はしませんでした、あれも旧の鳥取市と福部村が一緒になって、鳥取砂丘が1つの鳥取市の中に入りまして、元の福部村のところに作った砂の美術館ですが、たいへん好評で、周りもずいぶん活性化をしているわけです。これから西部のこの3町でまた新しい企画や検討もいずれできるとは思いますが、まずは、地元のいいものを見失わないで、それを活かして頑張っていくということで、一緒になって図っていきたいと思いますし、そうしたことが可能であると考えております。

スーパーはくとを浜村の駅に停めたいなといった話が市町村合併前からありまして、私もそういうこともいろいろ考えてみるわけですが、地域の魅力アップを図りながら乗り降りする人間が増えてくれば可能だということです。ぜひ、先程からの話で貝殻節とか、ヤサホーパークとかいろんなものを活かして、あるいは先程のふれあい祭りも、文

化祭と気多の市がひとつになって盛り上がったわけです。ああいうことでもっと人を呼んでくるような、そして、そういうようなその盛り上げを自分たちで考えてやってみよう。そうすれば鳥取市は全体としての力を発揮します。一緒になって情報発信もしますから、ぜひそういう取組みを考えていただきたいと思います。

(地元意見)

市の幹部さんだけでなく、議員さんがおられたら一番よかったと思うんですが、市庁舎の問題です。私は2年前に本庁舎で市長さんに呼ばれて会議をしたとき、これはなんちゅうけったいな建物やな、これはプレハブでできてるかと、思わず言ったんです。部屋は狭いし、職員さんだっただけ狭いところできゅっとなつて事務を取っておられます。県庁と比べたら、ここは耐震、その問題はもうあかんがなと思っておったんです。鳥取三洋電機もほとんど撤退しとる、それから日立金属も撤退しとる、そしたら何が残る。雇用の関係、これを心配しとったんですよ。市長が提案されて、活性化のために70億円でもしよう、駅南ですることによって活性化させて雇用を増やしたりと、いいことやなと思っておったんですが、ただ、議員さんが何か住民投票にかけると。これ、住民投票にかけべき問題じゃないんです。ほとんど市庁舎を見た人は誰もおらへん、ほとんどが。ただ、それを70億円と20億円とでどうですかねと言ったら、もったいない、20億円でいいと、答えは分かっているんです。住民投票をすること自体が議員の責任放棄だと私は思っています。

ところが今日、テレビでニュースを見ておりましたら、20億8,000万円で済むところが43億円かかるんだと。えーっと思つて、何のためにこの住民投票をしたんだ、その場で憤りを感じましてね。これ議員の代表さんがおられたら議会の報告をお聞きしたいんですけど、残念ながらおられません。今後の展望はどうなるんだ、なんのために住民投票したのかということについて、ちょっとお願いできませんでしょうか。

(副市長)

はい。今後の展望と、なぜこうなったかというようなお訊ねだったかと思います。今日テレビか何かご覧になられたと思いますが、20億8,000万円でできるというような耐震改修案が住民投票に付されまして、新築移転と耐震改修どちらがいいかということで皆さんに選んでいただいたんですが、実はこの20億8,000万円の案がよくよく調べてみると43億円あまりかかると。さらにもう少しかかるんではないかなというような話もありました。となりますと、住民投票に付したこの案、耐震改修案の方を多くのかたが選ばれたわけですが、実はこの案が物理的には不可能ではないかなということになったわけです。

なぜこうなったかということで、これをずっと経過をたどりますと、議会の方でも特別委員会を設置いたしまして、この庁舎の問題どうするかということ、相当時間をかけて議論いただきました。先進地なんかも視察されたということで、その結果として、やはり新築移転等が優れておるといような結論を、議会の方も一遍出されたわけです。議会では通常は過半数、半分以上が賛成であれば議決されるんですが、特別な場合、庁舎を移転するといような場合には、特別多数議決ということで、3分の2以上の賛成がないと議決になりません。議員さんが36名おられますが、数を数えてみると1、2名足りない。

移転に賛成されるかたが少ないというような状況もありまして、これをどうするか、何かで決着しないといけないというようなことで、やはり住民投票してみるべきではないかということになったわけです。その結果、多数のかたが20億8,000万円の耐震改修を基本とした案をお選びになられたということです。

それで、先程お話もございましたように70億円と20億円とどっちがいいかというのと、安いのでいいじゃないかと、こういうことになろうかなというふうに思いますが、将来を考えると、どちらが鳥取市にとっていいかということになりますと、やはり我々は以前から新築移転統合が優れておるとい立場でありまして、これはいまでも変わりはありません。

ただ、民意をどういうふうに考えていくのかということになりますと、もう少し手順が必要ではないかと。これから議論が議会も含めてなされていくというふうに考えておりますので、まずはその議会の方でどういうふうに議論を進めていかれるかを、しっかりと注視をしてみたいと考えております。我々も市民の皆さんにしっかり情報提供しながら、これからどういう選択が将来の鳥取市にとっていいのか、もう少しやはり検討していく必要があるかなと考えております。

(地元意見)

新築なら70億円のところ、改修を20億円でして、あとの50億円で公民館を新築できる、学校の耐震も早いことできると、こういう宣伝がかなり行き届いていた。これは多分そっちの方に行きますわな。

(地元意見)

市役所というところにはたいして行かない。何年に一度、一生のうちに一度も行かない人間はいっぱいおる。そういうようなこともかなりあったと思うんです。逆に言ったら執行部側の宣伝よりも、反対のかたの宣伝が賛成の方のを上回ったと思うんですけど、この辺の誤解というのは、解かれんとね。誤解されたまんまだと思います。学校の関係でもそういう宣伝が行き届いていると思います。

8 市長あいさつ

庁舎問題、本当にいまのホットな問題というよりも、改めて住民投票はなんだったんだという議論にきっと全市的にもなるだろうし、これから慎重にかつ市民の皆さんに十分な情報提供をさせていただきながら、議会とその執行部がいろいろ議論を重ねて最善の案を、改めて考えてみていかなければいけないと思っております。今日のNHKの6時のニュースでトップのテーマでした。ご覧いただいて来られた方も多いかもかもしれません。明日の新聞もきっと大きく取り上げると思います。まちづくりの問題でもあり、地域のこれからの発展のための、地域経済の活性化ための問題でもあり、そしてなによりも防災ですよ。また現地で建てることになると、2年で建設工事をするっていったような話も、文化財の調査やいろんな土壌を掘り起こすってというようなことで、その処理とか合わせるとずいぶん時間も必要で、これから2年ではできないという話です。合併特例債も住民投票の後に期限が5年間延びたってということも一方であるんですが、この問題、時間が長くかかって

います。

議会が特別委員会を設けて本格的に検討してきてから、いまでは4年目になるわけで、特別委員会も3代変わっているように思います。3つ目の特別委員会ということでして、ぜひできるだけ早く結論を出していきたいと思っています。ぜひ申し上げたいのは、この問題、いまから第2ラウンドなのか、第3ラウンドなのか知りませんが、改めてしっかりと検討して決着をしなければならない問題として、どういったらいいんでしょうかね、もう一度皆さんに考えていただきたいという段階を迎えています。

さて、今日の地域づくり懇談会を大変熱心に、特に子どもたちの通学路の安全という身近で重要な問題を話し合うことができたことは、大変有意義だったと思います。鳥取市全体で確か500ヶ所近くだったかな。391、はい。約400の危険箇所が分かっております、これはすぐに現地を確認して対策をたてようということです。全国的には毎年通学路で子どもたちが交通事故に遭い、亡くなるという悲惨なケースもあるわけです。絶対にこういうことがあっちゃならないということで、391ヶ所の点検をしまして対策をたてております。すでにできることはしていることもあります。先程の話で、ちょっと交差点が見えにくいから植栽を切るとか、そんなことはやっていますが、さらに、この浜村地区でも速度を落として自動車が通行してもらうために、どういった方法がいいかというのを、研究をして実施をしようとしておりますので、またいろんなご協力をお願いしたいと思います。今日出たご意見も踏まえて進めていきたいと思っています。

それから、きりり☆浜村まちづくり協議会、大変活動を続けておられて素晴らしいと思っておりますが、引き続き地域の皆さんの協力が絶対必要ですので、まちづくり協議会へ積極的に参加して、いろんな活動を続けていってほしいと思います。

河川敷の除草の問題が出ていまして、これはだれも答えなかったなあと思って見えています。これはもちろん河川の管理者の方に伝えていくというのが一番ですけども、ただ、川ってというのは、河川の管理者というのは水が通ればそれでいいと思っているわけで、あんまり河川の環境という面は注目をされていない。これは残念に思うんですが、もっと我々も主張していきたいと思っています。最近鳥取環境大学に行って、小林先生、ヤギの先生に会って話をしていたんですが、ヤギってというのは草を食べるし、ちょっとした低木の小枝ぐらいは食べちゃうんだそうです。今日話を聞いて、ヤギはどうかと。宝木ではご存知のようにヒツジが飼われていたりしていますから、それに対抗して浜村ではヤギだと。ヤギというのはとてもおとなしい、しかし頑固なんだそうですね。顔を見るとちょっと頑固そうだなと私も思うんですよ、頑固な動物だそうですね。だけでも、とてもコツコツまじめに草を食べてくれるそうです。ですから、ヤギを飼う、これはひとつ私から提案しておきたいと思っています。もし、協力を求められるようでしたら、市としても協力を検討します。それは子どもたちにもとっても楽しいお友達になれるんだと思うんですね。支所長さんも聞いているから、何か知恵を絞ってもらえるんじゃないか、というようなことも、ちょっと申し上げておきたいと思っています。

この地域のことで農林水産業ばかり言いましたが、私の知っている範囲でも気高電機さんとか、田中製作所さんとか、それから工業団地のいろんな企業など、この気高町の地域には工業も製造業もあるわけですね。ただ、輸出産業はいま、なかなか厳しい現状にあります。鳥取市全体としては、電気電子みたいなこの輸出型の産業はどうしても円高で

苦しみ、世界の経済不況で苦しむので、内需型の産業がいいというふうに思っています。ペットフードのマルカンだとか、それからヤマト運輸のコールセンターだとか、JCBの事務処理センターだとか、事務系の仕事も含めて内需型の産業にできるだけ転換を図りたいというふうに考えています。食品産業やなんかも、充分いろんな余地があると思います。鹿野の方に行けばジェラートがずいぶん売れていますし、それからこの気高の地域でもモルタルマジックのああいった、ちょっとした工業製品ですね、大企業をこの鳥取の地で興すというのは難しいので、隙間産業でヒットを狙うというのが非常に大事です。鳥取市はLEDの産業とかもありますし、いろいろ知恵を上手く使えばいろんなことができると思います。我々なりに知恵と工夫をして地域を豊かにするというようなことをして、若い人の定住ができる地域にしていくと、これが非常に重要だと思います。

また、学校についても、いま一生懸命に看護師さんの学校、養成機関を鳥取市内に作るうとしています。いま、県外に出られてそのまま県外の病院に勤務されるようなかたも多いので、ぜひ鳥取市内にそういうものを作って、鳥取市内の進学先を広げたい。鳥取大学、鳥取環境大学や専門学校、そういうレベルで、看護師のまずは3年制の養成機関とか、そういうようなことを考えておりますし、とにかく若い人が地域に定住して、仕事を地域の中で活躍するという場を作っていきたいと考えております。

新しい道路もいろんな可能性を開くでしょう。ですけれども高速道路ができると、道路に頼って朝夕の渋滞はなくなるにしても、それだけでは何て言うか、マイナスが少しなくなるだけですので、プラスになることを、みんなで力を合わせて、あんまり他力本願になってもいけませんので、自分たちの力で、自分ひとりでも結構です、いろいろ考えてほしいと思っております。

あまり締めくくりの挨拶になりませんでしたけども、まず今日はこうして浜村地区の地域づくり懇談会にお越しいただいたことに感謝を申し上げます。地域の課題について引き続き、我々と地域の皆さん、そして公民館、総合支所、まちづくり協議会、みんなが一緒になって力を合わせて、いろんな課題を解決していくように努力してまいりますので、引き続きよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。